

- ▶ モリサワカレンダー2017:「かなにあそぶ 本阿弥光悦の世界」
- ▶ 展示会のご案内:「page2017」開催間近!!
- ▶ フォント あ・ら・かると: 昭和書体フォント  
(「銀龍」、「黒龍」、「闘龍」、「陽炎」、「昭和楷書」)
- ▶ メンズDTP!! : Adobe InDesign CC 2017
- ▶ イベント情報

今月の  
フォント

- 本文: 凸版文久明朝 (R)
- 見出し: 解ミン月 (H)

### モリサワカレンダー2017

## かなにあそぶ 本阿弥光悦の世界

2017年版モリサワカレンダー『かなにあそぶ～本阿弥光悦の世界～』は、昨年に続き、本阿弥光悦(1558～1637)の書を取り上げています。光悦は、徳川家康から拝領した京都・洛北に位置する鷹峯に町衆やささまざまな職人たちとともに移住し、芸術村(「光悦村」とも称される)を築き、そこで生涯、活発な創作活動を展開したことで知られています。光悦が携わった分野は、書のほかに茶道具としての茶碗づくりや蒔絵作品の制作にも及んでおり、各々に天賦の才を発揮して、多くの優れた作品を生み出しています。

2017年のカレンダーに取り上げた作品は、画家による下絵をほどこした、いわゆる装飾料紙の上に揮筆したもので、平安と鎌倉時代に編纂された勅撰和歌集の三種、「古今和歌集」から冬歌(3月)、春歌(5月)、秋歌(8月)、羈旅歌(12月)、「後撰和歌集」から夏(6月)と秋(11月)の歌、「新古今和歌集」から恋歌(1月、9月)、春歌(2月)、雑歌(4月)、秋歌(7月、10月)を紹介しています。

一世を風靡した光悦流の書を、素晴らしいカレンダーデザインとともに、じっくりと堪能していただきたく思います。(監修者・西岡康宏氏の解説から)

第68回 全国カレンダー展  
「銀賞」受賞!



4月



山陰やさらても  
庭にあとも  
なし  
春そきにける  
雪の村消  
■藤原有家  
(新古今和歌集)

この山陰よ、まさしく春が来た  
と知られる雪のむら消え  
が見えるはかり。それ以外は  
庭上に物の訪れた跡かたど  
てない(むら消え||消えた  
跡が斑に残っていること)

忍草と藤の花を描いた巻物の一部、下絵は金銀と紙の色との三色であるが、多くの色を感じさせる。和歌は藤原有家の「新古今和歌集」収載歌。最後の行のみ墨量を多く太めに書き、画面に立体感と生む。なお、一行目「も」の左にある「見せ消ち」と呼ばれる点は誤りを示し、右の「は」が、訂正された文字。

3月



浦ちかくふりくる  
雪はしら浪  
の  
すえの松山こ  
すかとそ  
みる  
■藤原興風  
(古今和歌集)

入り江のあたり近く降ってくる雪は、あの東歌に言う、白波が末の松山を越しているのかと思うほどに見えることである。白雪を白波に見立てている)

屏風に貼られる三十枚の色紙の内一枚、蛇籠の一部を金泥で描き、六羽の千鳥を中央斜めに大胆に描く。和歌は「古今和歌集」収載の藤原興風の歌、それを散らし書きして全体の調和を図っている。「浦」「雪」「浪」の濃墨がそれを助け、文字と千鳥の調和が保たれる。千鳥は銀色が焼けて黒くなったもの。

2月



けふといへば  
もろこしまても  
行春を  
都にのみと  
おもひける  
かな  
■藤原俊成  
(新古今和歌集)

けふといへば  
もろこしまても  
行く春を 都にのみと  
思ひけるかな  
今日という日は遙か西の  
唐土まで渡つてゆく春であ  
るのに、ついでにだけ来た  
と思つてしまふ。(都に春を迎  
え、広大無辺と思ふ時、より  
「層おわらかな喜びになる」)

大胆な構図の面白さを受け、「新古今和歌集」収載の藤原俊成の和歌一首を左側に寄せて散らし書きする。全体に墨から剥落が見えるが、かつては扇子としてかなり使用していたものを幅仕立てにしたからであろう。骨の跡の傷みが野線のように明瞭に残る。扇面の中に扇面の骨を朱で描く趣向が斬新である。

1月



曇れかし  
なかもる  
からに  
悲し  
き  
つきに  
おほゆる  
人の  
おもかけ  
■八条院高倉  
(新古今和歌集)

曇れかし  
ながむるからに  
悲しきは  
月におほゆる 人の面影  
曇つてくれ。見入っていると  
忽ち悲しくなるのは、月ゆえ  
に思い出されるあの人の面  
影なので。

扇面を金銀泥により大胆に分割、銀泥で梅の枝が描かれ、その枝に響き合うように「新古今和歌集」収載の八条院高倉の和歌一首を書く。「つきにおほゆる」の語句は、金銀の境に浮かび上がるように書かれる。一見同じように見える散らし方だが、墨の濃さにより微妙に文字の見え方に変化をつけた結果である。

8月



月みれば  
千々に物こそ  
悲しけれ  
我身ひとつの  
秋にはあらねど

■大江千里  
(古今和歌集)

月見れば  
千々にものこそ  
かなしけれ  
我が身ひとつの  
秋にはあらねど

水面に蓮の大小の葉を金泥の濃さを変えて描き、「小倉百人一首」の二十二番文屋康秀の和歌から五首を書いたもの。散らし書きではなく、規則的に二行から三行に書写している。下絵の存在感を弱めに、和歌の書写巻と印象づける。光悦の散らし書きとしては、整然と字間を詰めている点がほかと趣が異なる。

7月



村雨の露も  
またひぬ  
霧の葉に  
霧の夕暮

■寂蓮法師  
(新古今和歌集)

村雨の露もまだひぬ  
積の葉に 霧立ちのぼる  
秋の夕暮

蓮の一生を一巻の巻物の下絵とし、『新古今和歌集』に収載の西行法師と寂蓮法師の和歌を書写、蕾の蓮を銀で塗り込め、蓮の葉を金銀泥の線を中心に軽やかに描く。画面は和歌二首分で、濃墨の文字が多く、蓮の蕾にあわせて並ぶように林立させている。もしこれらの書写がなければ、絵としてはやや寂しいものとなる。

6月



郭公きては  
旅はや鳴渡  
我は別の  
おしき都を

■よみ人知らず  
(後撰和歌集)

ほととぎすは山からやつて来て、こは旅先だと思つて鳴きながら飛び渡つて行く。私にとつては、別れて行くことが何よりも惜しまれるのであるのに。

『後撰和歌集』収載のよみ人知らずの和歌。卯の花の下絵が短冊全体におよび、銀泥が焼け黒く変色しているため、筆跡は見えにくくなっているが、書き出しの「郭公」や「別」の筆線が強く目に入る。とくに「別」の最後の一画は長く伸びやかに画面に緊張感を与える。文字の大小の変化が際立つ一点である。

5月



おもふとちはるの  
山辺にうち  
むれて  
そこともいはぬ  
たひぬし  
てしか

■素性法師  
(古今和歌集)

美しい友が春の山辺に連れだつてどこでもあれ、旅費をしないものだ。

3月と同じく、屏風の三十枚の色紙の内一枚。上部に大きく月を描いて左に柳を描く。『古今和歌集』収載の素性法師の和歌を、左の柳と呼応するように右側の書き始めは強めにする。全体には、やや細身で光悦の連続としては重厚さを抑えているようだが、墨量の多い文字が少なくさわやかな印象を与える。

12月



ほのぼのと  
明石の浦の  
朝霧に  
しまかくれ  
行

■よみ人知らず  
(古今和歌集)

ほのぼのと明けてゆく「明石の浦」の朝霧の中、鳥がけに消えて行く、それあの舟をしみじみと思うことだ。

巻物という上下に制限がある紙面に大胆に鶴の姿が様々に描かれる「鶴下絵三十六歌仙和歌巻」の書き出しの一部で、休んでいる鶴と、飛び上がった鶴の部分。三十六歌仙の内の柿本人麿から三人の和歌を順次書写したもので、人麿(丸)の「人」を後から書き入れているが、光悦の調和感覚の才能が現れ、不自然なく収まる。

11月



唐錦  
たつたの山も  
今よりは  
もみちなからに  
ときはなら南

■紀貫之  
(後撰和歌集)

唐錦(韓錦)を裁つたこという名のある竜田山であるが、今からは紅葉したままで断つことなくいつまでも続いてほしいことであるよ。

菊の花を銀泥、葉を金泥で描き、そこに『後撰和歌集』収載の紀貫之の和歌一首を書写したもので、銀が焼け黒ずんでいるために、花の上に書写した文字は明瞭に見えないが筆線の勢いにあふれた様子は伝わってくる。また、文字の大小は菊の絵のように一体となって見える。6月の短冊とどにも伝わったもの。

10月



秋かせの  
いたりいたらぬ  
袖は  
唯我からの  
あらし  
露の  
ゆく

■鴨長明  
(新古今和歌集)

秋風の吹きくる袖、来ない袖という差別はあるまい。すべて自分の心のせいにてこもも袖に露の置く夕暮れよ。(露は秋風が結ぶという観念をふまえての発想)

鹿の下絵の巻子に『新古今和歌集』収載の鴨長明の和歌を散らし書きしたもの。大きく三つの部分にわけられるが、その間(ま)が美しい。左に鹿二頭が描かれ、その周りに下の句を散らす。書き出しの塊、「秋かせ」と「いたりいたらぬ」の濃墨と細身の仮名の対比、鹿と筆跡の塊は、かなり大胆な書写表現である。

9月



春の  
よの  
ゆめに  
逢つと  
みえつれば  
おもひ  
たえにし  
人そまたる

■伊勢  
(新古今和歌集)

春の夜の夢に逢つと見えたれば、思ひたえにし人ぞ待たる、(夢に見るのは思つてくれるからという俗信がある)

下絵に銀泥で萩を描く。そこに『新古今和歌集』収載の伊勢の和歌を書写。全体に文字は、小さな散らし書きでおとなしい。2月の扇面と同じく扇子の骨が朱で描かれ、アクセントとなっているが、光悦印の上に朱が乗っている。また、扇子の折り目の跡はあまり強くなく、頻繁な使用はなかったようである。

今年も新春にその年を占う展示会「page2017」がまもなく開催されます。モリサワでは、各種製品やサービスの最新情報とともに、新たなソリューションのご紹介、文字・フォント、そしてデザインの価値をご来場のみなさまにお伝えできるよう計画しております。

《 展示会 》

1988年の開催以来、今回で30回目を迎えるpage展は、印刷メディアビジネスの総合イベントです。印刷業界は、この30年間に大きく進展し、また変化を繰り返してきました。その時代や社会環境の動きを捉えたテーマを毎年掲げて開催されるpage展は、開催時期が2月ということもあり、その年一年を考える上で大変価値のある展示会となっています。そして、今回のテーマは「ビジネスを創る～市場の創出～」。印刷会社が自社の一番得意とするサービスを提案する『印刷パートナーゾーン』も設置されます。また基調講演では、ここ数年注目され、拡がりを見せている「マーケティング」をテーマに取り上げて計画されており、今回も目が離せない展示会となることが予想されます。

《 モリサワブース 》

2017年のビジネスをみなさまとともに担っていけるよう、現在提供している各種製品やサービスの最新情報はもとより、新たなビジネスをみつけてい

ただけるようなソリューション、さらにみなさまに自社の強みを再認識していただく一助となるよう文字・フォントやデザインの価値の再発見に繋がる出展内容を計画しております。

主な出品内容は、

- **フォント製品**  
印刷からWebフォント、多言語にも対応し、幅広いメディアでご活用いただける製品群  
・ MORISAWA PASSPORT  
・ TypeSquare
- **ドキュメント編集システム【MC-Smart3】**  
書籍編集のみならず、数式やDB組版においても、生産性と高品質を誇るソフトウェア
- **可変印刷ソフトウェア【MVP7】**  
マーケティングツールの普及とともに、さらに価値を高めているバリエブル印刷分野に最適
- **デジタル印刷機【RISAPRESSシリーズ】**  
高品質、高生産性、高用紙対応力など、ますます需要が高まるPOD市場で大いに活躍

● **情報発信ツール【MCCatalog+】**

インバウンド対策の具体化や地方再生・町おこしにも貢献している印刷コンテンツを活用するインバウンド対応情報発信ツール

● **クラウド対応レイアウトエンジン【LayoutSquare】**

Webサービスのシステムなどに組み込み、文字とレイアウトデザインによる表現力、正確性、迅速性を実現し、情報コミュニケーションの質を高める

そのほかにもさまざまな製品を出展して、みなさまのご来場をお待ちしております。

《 さいごに 》

「page2017」展は開催間近です。現在のお仕事を拡大するために、そしてまた新たなビジネスを見出すために、さらには、協力会社をみつけ、ビッグビジネスを実現するために、ぜひともご来場いただき、自らの目で2017年の印刷業界やメディアサービス、情報コミュニケーションへの取り組みを実感してください。ぜひともモリサワブースにお立ち寄りください。

永 フォント  
あ・ら・か・と

昭和書体フォント

「フォント あ・ら・か・と」では  
毎号、

『MORISAWA PASSPORT』収録書体を  
ご紹介しています。

今回は、新しく収録された  
昭和書体フォント 5書体です。

『MORISAWA PASSPORT』は、タイプバンクフォント、ヒラギノフォント、多言語フォントなど、メーカーの垣根を越えてフォントを提供しています。今回はその中から、アップグレード2016で新たに提供

を開始した、株式会社昭和書体の筆書体をご紹介します。

昭和書体の筆書体は、直筆と思えるようなリアリティを備えていることが特徴で、書家・揮毫職人の綱紀栄泉氏の毛筆文字をはじめとした、さまざまなタイプの筆文字があります。『MORISAWA PASSPORT』には、堂々と力強い「鬪龍」、太い画線がダイナミックな「黒龍」、女性的で上品な「銀龍」、太さの変化を抑え、揺らぎと読みやすさを両立させた「陽炎」、手のぬくもりを感じさせるやわらかい楷書「昭和楷書」の5書体を収録しています。

テレビ番組のテロップ、映画や本の題字、パッケージ、ゲーム、看板など、さまざまな場面で使わ

れてきた昭和書体ですが、すべての筆書体に共通しているのは、「目に、意識に留まる文字」をコンセプトにフォント化されているという点。このこだわりと、筆書体を専門に開発してきた歴史と経験が、一括りにされがちな筆書体のバリエーションを支え、デザインの幅を広げています。

毛筆が活躍する四季折々の制作に、昭和書体の筆文字をぜひご活用ください。

\*使用見本…黒龍

千客万来

森路芙蓉花

点	画	点	画	点	画	点	画	点	画
晴	竜	晴	竜	晴	竜	晴	竜	晴	竜
銀龍		黒龍		鬪龍		陽炎		昭和楷書	

昭和書体フォントの「銀龍」、「黒龍」、「鬪龍」、「陽炎」、「昭和楷書」は、『MORISAWA PASSPORT』をご契約のお客様はいつでもインストールしてご利用いただけます。

# イケテル&ルーキーの メンズDTP!!

イケメンの「イケテル先輩」と  
勘違い系新人「ルーキー君」のドタバタ制作室

今回のテーマは — Adobe InDesign CC 2017について

**ルーキー**：先輩！ この間はIllustratorの話をお聞きありがとうございました。

**イケテル**：おう。役に立ったか？

**ルーキー**：はい！ で、今日はInDesign CC2017の話をお願いします。

**イケテル**：おう。まあ、そのうち来ると思っていたしな。

## ■InDesign CC 2017の新機能とは？

**イケテル**：さて、今回のバージョンアップだが、InDesignもIllustratorと同じように文字関係の機能が強化されている。

**ルーキー**：文字関係ですか。良いですね。

**イケテル**：そうだ。OpenTypeの機能が強化されて、テキストフレームや選択した文字列のところに「O」というアイコンが出てくるようになった。このアイコンをクリックすると……(図①参照)。

**ルーキー**：おお！ OpenTypeのメニューが出てきましたね。「すべてスモールキャップス」とか「上付き序数表記」とか、便利そうです。

**イケテル**：フレームすべてだけでなく、選択した部分だけへの適用もできるから、必要に応じて使い分けられる。日本語に対しても使えるから、いろいろ試してみると良いぞ。

**ルーキー**：あれ、でもこれってやっぱり、使えるフォントと使えないフォントがあるんですね。

**イケテル**：その通り。よく気付いたな。OpenTypeフォントであることが大前提だが、その中でもフォントによって対応しているOpenType機能が異なるから注意は必要だ。

**ルーキー**：はい。

**イケテル**：一応、環境設定の「高度なテキスト」で、この機能のON/OFFは

切り替えられるようになっているから、テキストフレームや文字列を選択した時に「O」が出てくるのが鬱陶しい時にはOFFにもできるぞ。

**ルーキー**：わかりました。ほかにはどんな機能ができたんですか？

**イケテル**：次は、そうだな。矢印の大きさを自由に変えられるようになったところは大きいんじゃないかな。

**ルーキー**：矢印ですか？

**イケテル**：ああ。線を引いて、線パネルから始点・終点に矢印をつけることがあるだろう？ この矢印の大きさを前よりも自由に変えられるようになったんだ(図②参照)。

**ルーキー**：おお！ これはなかなか良いですね。

**イケテル**：ちょっとしたことだけど、良い変更だろう。

**ルーキー**：これで、いちいちIllustratorでパーツ作りをする必要がなくなりますね。

**イケテル**：後は、そうだな。使う場面は限定的だが、多段組みのテキストフレームに対して、段抜きの脚注を付けられるようになった。

**ルーキー**：あー、確かに。今までだと段抜きの脚注はその都度テキストフレームの大きさを調節してアンカーで入れてました。それを考えると、大分良いですね。

**イケテル**：校正で文章量が変わると結構な修正が必要になる場合もあったからな。

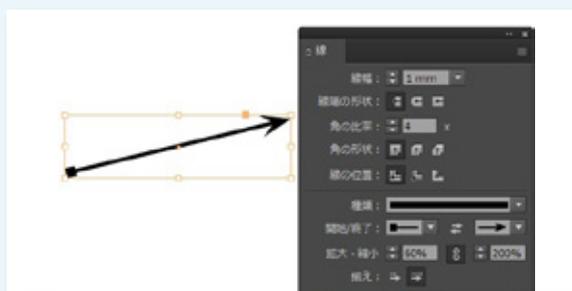
**ルーキー**：脚注と、欧文によく使うOpenTypeの機能、論文とかの仕事がやりやすくなりそうですね！

**イケテル**：お！ 良いじゃないか。じゃあ、全部任せる！

**ルーキー**：えー、ぜ、全部はちょっと……。



① OpenType機能の強化  
テキストフレームの下部に「O」のアイコンが発生し、アイコンをクリックするとOpenType機能のウィンドウが表示される。  
欧文だけでなく和文であっても、対応しているフォントならば使用可能。



② 矢印機能の機能拡張  
矢印の大きさを始点・終点別々に設定できるようになった。  
また、矢印部分の発生位置も変更可能に。

## イベント情報

page2017

会 期：2月8日(水)～10日(金) 10:00-17:00  
会 場：東京・池袋 サンシャインコンベンションセンター

主 催：公益社団法人日本印刷技術協会(JAGAT)  
テーマ：ビジネスを創る～市場の創出～

編集後記

新年あけましておめでとうございます。創刊以来続けて参りました新年号での各所からのご挨拶を見送り、今回は新カレンダーのご紹介といたしました。これまで、積雪の札幌から噴煙の上がる鹿児島まで国内8つの拠点から、日頃の感謝の気持ちをご紙面でお伝えしてまいりましたので、楽しみにされていた読者のみなさまには、誠に申し訳ございません。新年のご訪問時に生の言葉で感謝の想いが伝わることを願っております。

✉ E-Mail: [m-news@morisawa.co.jp](mailto:m-news@morisawa.co.jp)

発行：株式会社モリサワ 企画・編集：経営企画部 マーケティング課  
※記載されている会社名・商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

**モリサワ** [www.morisawa.co.jp](http://www.morisawa.co.jp)  
株式会社モリサワ

本社 〒556-0012 大阪市浪速区敷津東2-6-25 Tel.06-6649-2151  
東京本社 〒162-0822 東京都新宿区下宮町2-27 Tel.03-3267-1231  
仙台支店 〒984-0051 仙台市若林区新寺1-3-8 Tel.022-296-0421  
名古屋支店 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-5-10 Tel.052-201-2341  
札幌営業所 〒001-0010 札幌市北区北十条西2-6サウスシティ2F Tel.011-700-0112  
広島営業所 〒730-0805 広島市中区十日市町1-6-27広島印刷会館1F Tel.082-296-1114  
福岡営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-3-25 Tel.092-411-5875  
鹿児島営業所 〒890-0051 鹿児島市高麗町11-3 下田平ビル2F Tel.099-252-2255